

当日の様子

開会挨拶



PPE 着脱実習



当日の様子

手指衛生実習



検体採取実習



当日の様子

ゾーニング机上演習



閉会挨拶



診療所を対象とした新興感染症対策リーダー研修 事後アンケート結果サマリーレポート

項目	内容
対象	研修受講者 92名
回答数	75名 (81.5%)
回答者属性	医師 71名、看護職 3名、事務 1名
集計期間	10/14～11/28

★研修内容に関する評価

- サマリー：ポジティブ言及を含む回答は 58 件
 - ・今後の地域研修に活かしたいとの意見多数
 - ・チェックリストを用いた研修方法は有用で、汎用性が高い
 - ・「正解が一つでない」ことを体験的に学べた
 - ・実技/演習中心とした実地研修という形式が非常に有用
 - ・少人数グループで質問しやすく、他地域参加者との意見交換できる形式は有意義である
 - ・受講者が各地域で研修会を開催するためには、講師、受講者、会場、費用の確保と、多職種の参加が課題となる

- 手指衛生（標準予防策）
 - ◆ 良い点
 - ・ 洗い残し可視化（蛍光剤）が大きな学習効果に繋がる
 - ・ 反復学習し、手洗いの癖を自覚、再確認できる

 - ◆ 課題
 - ・ 現場で手指衛生に十分な時間確保するための方法
 - ・ 手荒れを考慮した手指衛生の指導方法

- PPE（個人防護具）の着脱
 - ◆ 良い点
 - ・ 実演＋実技の組み合わせは理解が深まる
 - ・ 他受講者の着脱方法も学べて、自己流の見直しに繋がった
 - ・ 2人1組での確認の重要性が理解された

 - ◆ 課題・要望
 - ・ 講師間で説明のばらつきがあった
 - ・ 素材（ビニール・不織布）による手順の違いの整理
 - ・ 限られたスペースでの安全な着脱方法
 - ・ N95 の着脱/フィットテスト等をピックアップした研修実施要望

- 検体採取
 - ◆ 良い点
 - ・ 模型を用いた体験で手技の理解が進んだ
 - ・ 日医による模型の貸し出しは非常に有用
 - ・ 鼻咽頭への到達の重要性を再認識
 - ・ PPE、動線を含む流れの理解が促進

- ◆ 課題
 - ・ 乳幼児、小児での採取法の研修ニーズがあった
 - ・ 模型改善要望（透明化、内部構造可視化）
 - ・ 実際の診療所での PPE 必要性に関する懸念

- ゴーニング（机上演習）
 - ◆ 良い点
 - ・ 実例を用いた検討が非常に有効
 - ・ 「正解が一つでない」ことを体験的に学べた
 - ・ チェックリスト活用が有効
 - ・ 理想と現実の調整を考える訓練の重要性を認識

 - ◆ 課題
 - ・ 出入口が1か所の診療所が多いなど構造的制約下での対応
 - ・ 高齢者施設など他施設への応用の要望
 - ・ 患者数、フェーズ別の条件設定の必要性
 - ・ スペース制限下での実践方法への疑問

- 今後希望される研修形式・方法
 - ・ eラーニング＋実技のハイブリッド形式
 - ・ 年1回以上の定期開催
 - ・ 地域単位の研修会の開催
 - ・ 実技の個別フィードバック（動画、ピアレビュー）
 - ・ 少人数制、ペア学習
 - ・ BCP、地域感染症サーベイランス等の追加テーマ

- 地域で研修を実施する際に参考となった点
 - ・ PPE 着脱、手指衛生、検体採取の「実技中心」構成
 - ・ チェックリストの活用
 - ・ ゾーニング演習の実施方法
 - ・ グループ討議形式の有用性
 - ・ 「正解は一つでない」前提での指導法

- 地域開催に向けた課題
 - ◆ 講師、指導者の確保
 - ・ 専門家不足
 - ・ 指導者マニュアル、デモ動画整備の要望
 - ◆ 費用、会場
 - ・ 現地実習に伴うコスト負担
 - ・ 地域で適切な会場確保が困難
 - ◆ 参加者確保
 - ・ 診療報酬加算との関係が参加に影響
 - ・ 発熱外来への抵抗感が強い診療所も多い
 - ・ 看護師、事務職、介護スタッフなどにも参加してもらう方法

- 他地域での行っている研修で、日医が参考とすべき提案
 - ・ 模擬シナリオ演習の活用
 - ・ オンライン研修、ビデオ教材の活用
 - ・ 災害時感染症対策、交差汚染リスク提示などの応用的研修